



## 園部共同作業所だより

園部共同作業所発行  
京都府船井郡園部町上木崎

No. 7

32

07716(2)3249



屋根の修理が終わりました

屋根の修理がやっと終わりました。トタンのカワラボ一様式になりましたが、これで安心です。なにしろ雨が降ると、四力所から雨漏りがするのです。こうなると急いで製品や材料（下請け仕事は九〇%が紙製品、濡れると全部がダメになる）を、あっちこっちと移動させ、バケツや洗面器で、雨水を受けねばなりません。台風による集中豪雨ともなれば、受けているバケツから溢れ床はピトピト、後始末が大変です。そして何より嬉しいには、日曜、祝日、夜間に「雨だー」と作業所へ行かねばならないという問題が解決した事です。 次には便所の改修が控えています。旧式で老朽化しており、衛生的にも、また使用上も不便でありますので、男女別、内装はタイル張りということで考えています。

このための工事費については、京都府共同募金会へ援助申請をしているところです。

所長 杉山俊夫

じが強かつたものです。通所して来られている人たちの状況も充分にわからないままスタートして、何故かなあ? といった髪間ばかりが膨らんできました。しかし、でもまたよ、ちょっとと運つなあという思いがいつもどこかにありました。

障害があるとは言え、それに甘えているところはないか、それに負けているとこころはないかなどと思うようになります。やれば出来る、又充分に回復しない人も作業を通して自分の持っているものをもつと出せるはずだ との思いに立つてどんどん作業をしてもらいました。そうでない人には、いこいの場として作業所があればいいのでは、などと少しずつ作業所としての役割も私自身のことも見えてきましたと 思います。

杉山先生の地道な働きによつて、とりあえず毎回行ける所、集まる所が船井郡に出来ました。しかし、これからは本当の意味でひとりひとりの自立の為に作業所をどうしたらいいのか考えていかねばなりません。ひとりの小さな手では、何もできなかつたことが、みんなの小さな力を寄せ合つて少しずつ、少しずつ業者からも頼られる存在になつてきました

ひとりの小さな手  
なにも出来ないけれど  
でも、みんながみんながあつまれば  
きっとできる、きっとできる  
（次のように）  
大内義宣

卷之三

平成二年  
伊勢志士心臓手方面一泊旅行

そもそもこの旅行はその前の秋に行われる苦であった。けれども我々の引率者である杉山先生が足に怪我をしたためやむなく春にそれこむことになつたのである。

かくて春は来た。着ていくものに少し金を遣つた者が少し居たけれど、皆いつものように園部駅に集まつた。JR-1近鉄と乗り継ぎ」といつても近鉄で特急を待つ間はずいぶんながく感じられた。ここで特急車内で食べる昼食が配られた。鳥羽に着く。ずいぶん電車にゆられたがやはり鳥羽もただの日本的一部という感じが正直な所であつた。

まちがえたタクシーでーというのはその日の宿のホテルのお迎えが来るはずだったのにタクシーに乗つてしまつたのだ。我々はそのまま夫婦岩へ行く。夫婦岩では岩が波を噛んでいて波が時々とんできた。社のようなものがあり、おみくじ、お守りが売られていた。仲間の一番屈強なのがなにやら手をあわせている。先生はまったくそんなことはせず波の泡の飛ぶのばかり見ている。

ホテルにそのタクシーで行ったわけだが、そのホテルの大きいのには驚いた。まず先生が先ほどのタクシーのことと頭を下げる。バスの運転手は「いやいや」などと受けて居る。宿へはいる。荷物をおろしベランダから外を見ると近くに海がある。同じ日本だと思ったが園部は山でここは海だ。風呂は一番うえにあるのでエレベーター出浴に行く。大きな湯船であり、豊富な湯があり、ガラスの壁に鳥羽の海。そこに浮かぶ「ぶらじる丸」の白い胴体。汗を流して、宴会ではまずホテルの方の挨拶があつた。こちらがあぐらをかいているのに向こうは手をついて「いらっしゃいませ」と頭を下げるには閉口した。要するに食いたいの気持ちが強かつただけであるが、大きな男が四人程ぬかずくに至つては何か悪いことをしたような気にさせられた。彼らが引き上げた後仲居さんが「これは何でございます」「これはこういう名の魚で」と座をもりあげた。めずらしくて美味しいだったのは刺身のしたにひいてあった海草である。コリコリとして味がいいので「これまだありますか」と仲居さんに言つてみたところ「いくらでもあります」との事であつた。さて寝る時、私には一抹の不安があつた。すぐ眠れるかどうか。これが悩みのタネである。右を見る。氏である。かの夫婦岩にて手を合わせた屈強なる男。左を見る。引車者の杉山所長。心穏やかなり。伏すれば寝るの男。だめだ。私には勝ち目はない。左右の男の睡眠からとりのこされて今夜は一人左と右のいびきを味あわねばならぬのか。

遠路大坂より職員として、長年勤務されてきた大内指導員が、この四月をもつて退職されました。作業所が始まっていますが、何かと苦労の多かった時よく頑張つてもらいました。有り難うございました。

地元大坂ではやはり福祉関係の婦人厚生施設に勤務されております。ご活躍を期待してきます。

## おしらせ

S.T. (男)

何時何分どこに着き発つたを、羅列するだけではおもしろくないので私自身が感じた、思い出深い所を書いてみよつかと思つ。ただ悲しい事に私の脳は当時の思い出をあまりとどめていない。これはあの旅行があつてから今日この稿を起こすまでの日数がありすぎた故にと思つたといふのがやはり私の脳が忘れ易くなつたという方が正直なところでないかとと思う。

こういう時助けてくれるのが旅行のおりである。なにしろしおりを見れば何時にどこへ着き、発つたかが、瞭然である。しかしそのしおりが手中にない。どこを揃しても見つからない。私はここに至つて初めてこの稿を依頼した所長を憎まざまにはいられなかつた。なぜ「旅行記」を旅行前から頼まぬかと。しかしこれは所詮物の整理をしておらぬ男の戯言にしか過ぎない。自分からいう物である。それに思い出せば私は作業所を風邪で欠席していたから所長は旅行前に依頼しよつにもそれは不可能だったのである。

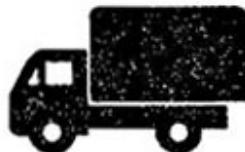
## 『トヨロシクおねがいします』

四月より当作業所に指導員としてまいりました黒田トキエです。福祉の事に関する勉強をしていきたいと思つております。前任の大内先生にはとても及びませんが、せめて母親としての経験を生かして精いっぱい頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

有り難うございました	
平成3年度寄贈品・寄付金	
明田履き物店	靴、サンダル
宇野なつえ	缶コーヒー、缶ジュース
浅田喜義	菓子箱
山本きみえ	ケーキ
小西 実	2000円
片山絹代	50000円

## 行事

1月9日	新年会せんざいパーティ
3月14日-15日	伊勢志摩一泊旅行
4月10日	花見（篠山城跡）
5月12日	大内指導員送別会
6月7日-10日	京都駅前広場福祉バザー（ふれあいショップ）
7月23日	海水浴（由良海岸）
8月21日	水泳教室（亀岡市民プール）
9月18日	ビーチバレーボール（園部町BG体育館）
10月16日	ソフトボール大会（八木町グラウンド）



## 編集後記

中心的な編集委員が退職し、非常にしんどくやっと出来た7号です。これからも、苦しいですが「作業所だより」を出して行きたいと思っています。よろしくお願いします。